

公開セミナー 「東京の海・漁の再生」

- ・日 時：平成26年9月18日（木） 13：30～15：30
- ・場 所：東京都消費生活総合センター 17階 教室Ⅰ・Ⅱ
- ・講 師：濱田武士さん（東京海洋大学准教授）
- ・参加人数：66人



（濱田武士さん）

（データを基にした説明に熱心に聞きいる参加者の皆さん）

<プログラム>

- 13：30 開会挨拶 小野 清
（東京都消費者月間実行委員会 環境・食グループ長）
- 13：35 講演
- 15：00 質疑応答
- 15：30 閉会

司会：五十嵐ちづ子（東京都消費者月間実行委員会 環境・食グループ副グループ長）

海の世界、漁業と人間社会の営みは極めて密接です。私たちの経済活動・消費活動が自然に与える影響は大きなものがあります。今年は視点を山から海に移して、漁業経済学の専門家である濱田さんをお迎えして、漁業と社会をめぐる問題についてお話いただき、共に学びました。

日常あまり接することのない全国の海、特に沿岸の環境で起きている現実の問題と、地域で解決に取り組んでいる方々がいることを知り、消費者としてできる行動について考える機会となりました。

参加者からも、「個人の考え方、食や消費行動は大切だと思った」「自分たちの生き方が海の世界にも反映していくことを実感した」とのご意見をいただきました。

以下、講演会の概要です。

環境・食グループ 公開セミナー報告

東京海洋大学の濱田武士准教授を講師に、公開セミナーを行いました。環境と食の関わりについて水環境を中心に話をうかがい、消費者としての姿勢を再確認しました。

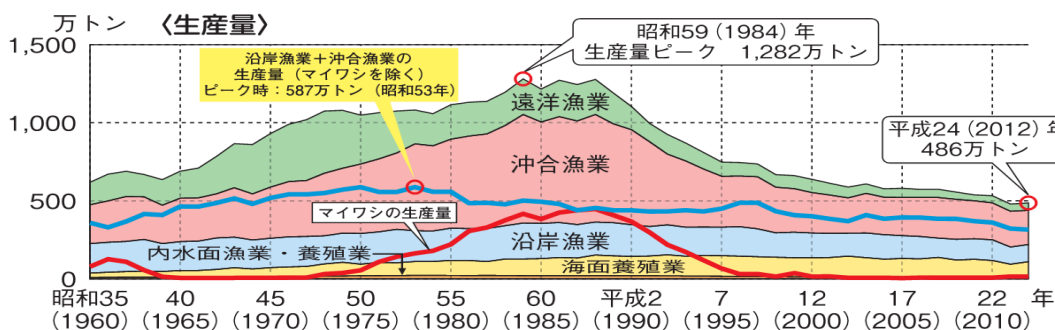


埋立がすすむ東京湾

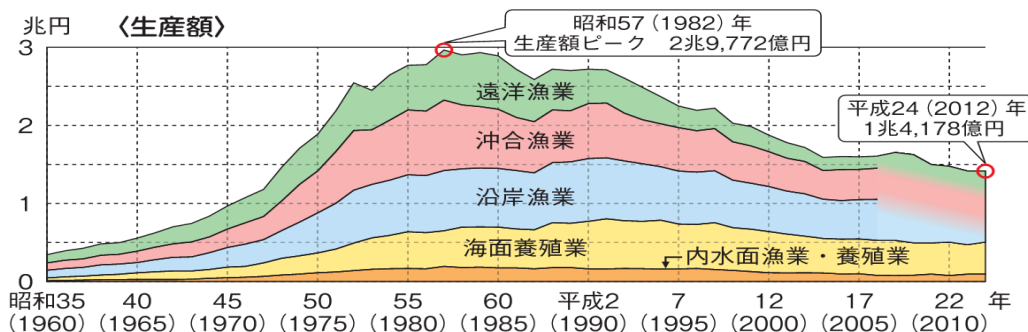


- ▶ 「食」は、「人」を「良」くする。
- ▶ 「食」は、自然から始まる。
- ▶ 人間と自然との関係が良好でなければ、「食」は損なわれる。
- ▶ もし、人間と自然との関係が損なわれたのなら、再生させれば良い。

日本の漁業の生産量 (平成 25 年度 水産白書)



		平成24年(2012)
生産量	合計	4,864
	海面	4,797
	漁業	3,758
	遠洋漁業	458
	沖合漁業	2,209
	沿岸漁業	1,090
	養殖業	1,040
内水面	67	
漁業	33	
養殖業	34	



		平成24年(2012)
生産額	合計	14,178
	海面	13,288
	漁業	9,156
	遠洋漁業	...
	沖合漁業	...
	沿岸漁業	...
	養殖業	4,132
内水面	891	
漁業	180	
養殖業	710	

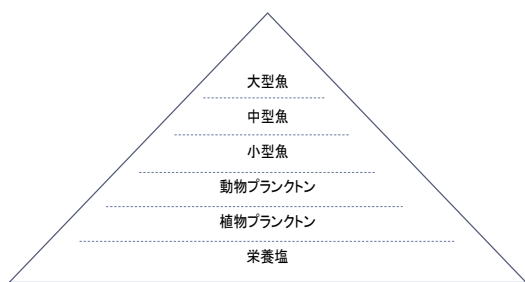
資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」

日本漁業の生産量の推移を1960年から見てみると、生産量のピークは1984年の1282万tでした。生産額のピークは1982年ですからそのころが日本漁業の最盛期であったと言えるでしょう。マイワシの生産量が400万tありマイワシの大量生産が日本を世界最大の漁業国へと押し上げていました。生産量は2012年には486万トンと半分

以下に減少しています。減少の原因はマイワシの減少だけではなく、漁業就業者が激減していることにもあります。

獲れる魚種は年々変動するものです。魚が減ったのではなく漁業の衰退と消費者の魚ばなれが背景にあります。全てにおいてバランスが大切。農業と漁業と林業の再生こそが、水環境をはじめ地球環境の再生につながると考えます。

魚種の生態系ピラミッド



環境再生の取り組み

水環境の再生のためには、植林活動による山林の涵養機能（地表の水が浸透し地下水となる働き）の再生が有効です。河川流域の再生のためには、し尿（農業排水）流入対策のための保安林造成が必要となります。ほかにも沿岸域の藻場・干潟の再生など、環境再生の取り組みは、NPO、協同組合、市民団体などが参加して各地で取り組まれています。



魚をはぐくむ森づくり

環境と食の再生は

- ▶ 我々にとって大事な国土
- ▶ 農の文化、漁の文化は食の文化
- ▶ これらが地域の暮らしの文化を育んできた
- ▶ 地域にある自然そして地域にある環境・文化を大切にすることは国土を大切にすること

おわりに

- ▶ ひとりだけでは環境を再生できない。
- ▶ いろいろな人、団体と交流して、環境の状態を知ること。
- ▶ それぞれの暮らしや仕事を理解すること。
- ▶ みんなで何ができるか、個人で何ができるか、をみんなであらためて、みんなで共有すること。

国土開発と海洋環境の悪化

「新農山漁村建設計画（1956年）」「国有林生産力増強計画（1957年）」「全国総合開発計画（1963年）」さまざまな国土開発は、森林だけでなく水環境を悪化させてきました。

過度な森林伐採や山林の放置、ダム建設により海に流れ込む栄養塩が少なくなり、海はやせていきました。逆に、工場や生活排水は富栄養化のもとになります。海の貧酸素化には海砂利採取、ヘドロの堆積、干潟砂浜の喪失が背景にあり、魚介藻類など海洋生物の生産力が弱まったことが「漁業の衰退・食文化の衰退」につながって行ったのです。

干潟の再生



地域の協同組合間の連帯

15年ぐらい前から、農民と漁民の協力をすすめる動きが始まりました。共同で植樹活動を行い、現在は都市部の生協との交流に発展しています。行政、漁協、農協の3者間で協定が締結され、造林計画を策定し連帯する事例が各地で始まっています。植林活動は、森林組合の指導協力によって行われます。

